**報告者：高野一男**

**視察報告（令和6年環境・水素）**

日　時：令和6年5月10日

場　所：横浜綱島水素ステーション・スイソテラス及びジャパントラックショー2024

参加者：7名

**報告**

**１　綱島水素ステーション・スイソテラス（横浜市港北区綱島東、東急綱島駅徒歩10分）**

**施設概要**

エネオスが首都圏で展開する20か所の水素ステーションの1か所で、同じ敷地にショールーム「スイソテラス」が併設されている。

**「スイソテラス」概要**

2階に映像で、「水素とは」をはじめ供給施設の現状から、安全性、将来の供給体制など、水素の基本的なことを紹介するコーナーが設けられている。

1階には、綱島の施設の概要を示す模型のほか、車に供給する体験コーナー、高圧の水素を扱うための技術開発などを紹介するコーナーが設けられている。

**車への水素の供給体験：（乗用車用）**

供給ノズルはガソリンのそれよりもかなり重いが、セットすると手放しできる。

時間は５kgを3分程度で時間的にはガソリンと変わらず、400㎞から500㎞走行が可能。１kg2,200円（値上がりして）、約100㎞走行可能、まだ高い。

1㎞の走行で小さなジャム瓶の半分くらいの水が出るとのこと、意外と多い。

**水素ステーション**

外部の製造設備などで製造した水素を専用トレーラーで輸送する「オフサイト」方式。

ヘッドを外した、輸送容器は、まさにシャーシに乗ったコンテナ。

この施設では1週間に1回交換するとのこと。（綱島での需要は今のところ限られている）

**感想**

エネオスは海外でグリーン水素を製造、それを輸入して活用する仕組みを目指している。

輸送は、水素とトルエンを結合したメチルシクロエチレン（MCH）で行うことで、常温、常圧で扱え、現在ある製油所の施設を活用できるメリットがある。

技術開発とグリーン水素の開発が進められており、実現性が高いと期待できる。

国内でも風力を利用したシステムの可能性が充分あると思われる。

製油所の施設が活用できるとのことなので、東京港での施設対応はないであろう。

**２　ジャパントラックショー2024（パシフィコ横浜）**

トラック関連業界、日本最大の展示会、「環境と調和する物流の未来」がテーマ。

大型トラックの脱炭素対応を期待しての視察であったが、展示は以下の1台のみ。

世界ではすでに導入され始めている電動の大型トラックも出展はなかった。

**日野プロフィアZFCV**

トヨタ自動車と日野によって共同開発された燃料電池トラックで、走行実証を通じて実用化に向けた取り組みを進めている。

航続距離などの性能やタンクの配置などの車体の資料はなく、詳細の説明もなかった。

水素の供給システムが整備されていない今、まだ先の話ということか。